

タイトル	観光開発の変遷と地域経済との関係性に関する研究 —中国麗江市を事例として
著者	蔣，蕾；JIANG，LEI
引用	
発行日	2019-09-30

氏名・（本籍地） JIANG LEI 蒋蕾（中国）

学 位 の 種 類 博士（商学）

学 位 記 番 号 博（商学） 甲第 5 号

学位授与の日付 令和 元 年 9 月 30 日

学位授与の条件 規則第 4 条第 1 項該当

学 位 論 文 題 目 観光開発の変遷と地域経済との関係性に関する研究

—中国麗江市を事例として

The Study of the Relationship Between the Transformation
of Tourism Development and Local Economy—The Case of
Lijiang, China

論 文 審 査 委 員 主査 教授 伊藤昭男

副査 教授 佐藤博樹

副査 教授 山田勅之

I. 論 文 内 容 の 要 旨

1 本論文の目的

蒋蕾氏の論文表題は、観光開発の変遷と地域経済との関係性に関する研究—中国麗江市を事例として The Study of the Relationship Between the Transformation of Tourism Development and Local Economy—The Case of Lijiang, China である。

本論文の目的は、観光開発の発展と地域経済との関係性を動的に考察し、複数の角度から観光産業の発展と地元他産業の発展との結びつきにおいてどのような問題と課題があるかを明らかにすることである。その上で、本論文では、観光産業の機能を十分に発揮し、他産業との結びつきを強め、持続可能な地域の社会経済を実現するための示唆を得ることが目的である。この目的を達成するために、本論文では観光地である中国麗江市を事例として次の諸考察を実施した。(1) 世界遺産登録前の 1995 年から現在までのおよそ 20 年間にわたる麗江の観光史を時期区分した上で、麗江における観光産業の歴史的変遷を把握・考察するとともに、持続的観光開発に向けた課題について考察した。(2) 観光関連産業と産業構造との結びつきと変遷について、統計データに基づき実証分析を実施した。(3) 観光産業と地域の諸産業との融合・連携関係を、観光融合論と観光イノベーション論から成る理論的基礎の視点から現地における詳細なインタビュー調査および文献資料調査を踏まえた上で統合的に考察した。

2 本論文の構成

各章の構成と概要は以下のとおりである。

序章「研究概要」では、本論文の研究背景と目的、研究対象の選定、論文の構成とアプローチについて具体的に説明している。

第一章では、歴史的な視点から麗江における観光産業の変遷と持続的観光開発に向けた課題について論じている。麗江の観光産業は 1990 年代から始まり、現在まで 20 年余りの間に、大きく発展してきた。この 20 年間の間に、麗江における飲食・宿泊業、交通運輸業、小売業や不動産業などの観光関連産業と観光政策、雇用、地域インフラ整備、娯楽施設、住民の生活レベルと意識などさまざまな変化が生じた。麗江における観光産業の役割、位置づけと地域経済との結びつきも観光産業の発展とともに変遷した。このような状況を踏まえ、本章では、Butler の観光地ライフサイクル・モデルを適用して 1995 年から現在までの麗江における観光産業の歴史的発展を三つの段階に区分している（1995 年から 2003 年までの地域連累段階、2004 年から 2012 年までの発展段階、2013 年から現在までの整理統合段階）。その上で、各段階における観光産業の動き、観光政策、観光教育及び観光インフラの整備などの特徴を詳しく考察している。次いで、UNESCO のアジア・太平洋地域持続的な文化観光発展麗江合作モデルを参考に持続的地域観光開発循環の概念モデルを提示し、その考察フレームから持続的観光開発を発展させるインプリケーションを考察している。

第二章では、1995 年から 2015 年までの長期的な統計データを用い、立地比率分析とシフト・シェア分析を用いて麗江における観光関連産業の変遷を麗江の産業構造との関連づけを行いながら分析している。その上で、麗江においてすでに比較的発展している観光関連産業と産業構造の高度化を要する観光関連産業の現況と課題を明らかにした。考察結果の要点は、①建築業、飲食と宿泊業および農林牧漁業は集積度、競争力が高く、産業構造も高度化している産業であり、麗江の観光関連産業の中での発展産業であることが明らかとなった。そのため、これら三つの産業の優位性を積極的に発揮し、他の産業を振興して地域全体的な経済を発展させることが重要であることが示唆された。②小売業・卸売業は 1995 年以後、集積度と競争力はともに上昇している産業であることが明らかとなった。しかしながら、産業構造要因は下がっており、競争力を確保すると同時に、産業構造の調整を実施していくことができれば一層の発展が見込める産業であることが示唆された。③製造業、不動産業、交通運輸業は集積度、競争力はともに下降しており、他の観光関連産業と合わせてそれらの産業を活発化させる必要があることが示唆された。④1995 年から 2015 年までの全体を通じて、産業構造要因によって上昇してきた産業が見られなかったため、麗江における観光関連産業においては産業構造の調整が今後の重要な課題であることが示唆された。

第三章では、第一章と第二章の考察結果を踏まえ、田里らなどによって提示された観光融合論とヒヤラーガーによって提唱された観光イノベーション論を理論的基礎とし

て、現地での詳細なインタビュー調査を実施し、麗江を持続的観光開発地域へと導くためのインプリケーションを考察した。本章では先ず、上記観光融合論の視点から麗江における観光産業と関連産業との融合状況を、該当産業別に歴史的に把握・整理し、必要に応じて段階区分した。また、ヒヤラーガーの観光イノベーション論において示された4つのチャンネルの視点から、観光融合の変化の原因と課題を明らかにした。これら2つの視点から麗江における持続的観光開発における課題および示唆を考察した。さらに、これらの視点から麗江における持続的観光開発における課題および示唆を総合的に考察した。その結果として、麗江における農業、宿泊業、文化産業の観光融合は第三段階に進んでいるものの、不動産業、交通運輸業および製造業はまだ第二段階に止まっていることが明らかとなった。また、ヒヤラーガーの観光イノベーション論の視点から麗江における各観光関連産業の観光融合を促進する要因を考察した結果として、制度システムのサポート力が最も強く、インフラシステムと技術システムのサポート力はやや強い状況であり、交易システムのサポート力は最も弱いことが示唆された。以上の考察を踏まえて本章では麗江における持続的観光開発へと導くためのインプリケーションを考察し、まとめている。

結章では、前述の考察・分析結果に基づき、観光産業の機能を十分に発揮し、他産業との結びつきを強め、持続可能な地域の社会経済を実現させるために必要と考えられるインプリケーションとして、1) 地域産業の連携、産業構造の高度化を実現させるシステムの整備として観光開発だけではなく、地域における生業づくり、雇用創出のさらなる努力が必要であること、2) 文化・環境の保護を強化するシステムの整備が求められること、3) 地元内と地元外の交流システムの整備が重要であるとの知見を見出している。

Ⅱ．論文審査結果の要旨

1 審査の経過

令和元年6月5日に博士請求論文が提出され、直ちに商学研究科長の下で、審査委員として、主査に伊藤昭男、副査に佐藤博樹と山田勅之が選任された。令和元年7月12日に公開報告会が開催され、引き続き口頭試問がおこなわれた。審査員全員の出席のもとに本論文について申請者の説明を求めたのち、関連事項の質疑を行った。その結果、審査委員全員により合格と判定された。

2 評価

(1) 論文の主な成果

論文の主なる成果は次のとおりである。

第一に、地域産業の連携、産業構造の高度化を実現させるシステムの整備として観光開発だけではなく、持続的な地域経済を目指すためには、観光入込客の増加ばかりでなく、地域における生業づくり、雇用創出のさらなる努力が重要であることが示唆されていることである。そのためには、新たな観光形態と観光市場需要の創造によって、従来の観光に関連する事業にととまらず、農林水産業、教育、建築、不動産、福祉医療など、多様な地域産業との連携・融合が不可欠であることが示唆されている。また、麗江の観光地ライフサイクルは2013年からの段階では、観光客の訪問シーズンの拡大努力や観光産業と他産業の連携が求められるとともに、環境問題、社会問題への対応も求められる段階であり、そのまま推移するに任せておけば、停滞あるいは衰退段階に入る可能性が高いことも示唆として見出されている。さらに、麗江における産業構造は十分な高度化には達していないことが明らかとされている。すなわち、農業、宿泊業、小売業は競争力が高く、産業構造も高度化してきており、観光産業との融合・連携性も促進されてきている一方で、地元の固有性を重視した製造業、交通運輸業、不動産業は集積度および競争力の低下がみられ、観光産業との融合的発展はいまだに弱いことが示唆されている。これらから、今後は個別産業の振興政策だけではなく、製造業、不動産業、交通運輸業も含む地元他産業との連携・協力を一層促進し、地域の産業構造全体の高度化を図る政策を推進すべきことが示唆されている。

第二に、文化・環境の保護を強化するシステムの整備が必要であることが示唆されていることである。持続的な地域経済を目的とした観光開発は、単に利益の出るビジネスの創造ではなく、住民の生活文化が存続できる環境の保護と、住民が自律的に文化遺産を保護できる環境の構築が必要である。考察結果より、観光産業の発展は麗江の地域経済発展や文化伝承・保護を促進している一方、さまざまな弊害を顕在化させている。たとえば麗江古城と玉龍雪山は過重な負荷がかかり、自然環境の破壊を引き起こした。玉

龍雪山の雪量と黒龍潭公園の水量は大幅に減少した。また、地域外の民間大手企業による大規模リゾート開発も地域の自然環境の破壊を招いた。観光客の増加にともなって麗江の宿泊施設の数も増加している。都市中心部の周りの農村地、村はほとんどがホテルや住宅地区に変わり、伝統的な農業景観が失われた。そうしたホテルやゴルフ場などの開発による利益の多くは大都市に流れている。さらに、伝統の過度な商品化など、誤った利用は中長期的にみて観光開発に支障を来すばかりか伝統文化そのものの内在価値や文化意義を低下させ、消失・破壊した場合もある。これらの考察結果から、観光による地域自然・環境などへの負荷を軽減し、観光地の伝統文化を守りながら観光開発を行う取り組みが求められることが示唆されている。

第三に、統計データ分析と現地での詳細インタビュー調査による結果から、麗江では経済基盤の脆弱性から多くの観光ビジネス・経済が中小企業によって営まれていることが多く、企業の経営能力および地域外とのビジネス交流機会が少ないことが把握された。また、地元外から多くの企業および資金の流入があり、観光地化による利益が、地元ではなく、地域外部に還流している問題を実態的に把握し得た。こうした状況は、地域住民側に経済面も含め観光開発におけるメリットの低減を招き、地元住民の満足度を低下させている可能性を暗示している。そのため、持続的な観光開発を通じて地域の社会経済発展へと導くには地域内と地域外の交流システムの整備が今後一層重要になることが示唆されている。

(2) 評価

本論文の主な特徴は、①観光融合論および観光イノベーション論のロジックを用いて持続的な観光開発を考察している点、②理論的考察と実証的考察（統計データ分析、現地での詳細なインタビュー調査）とを統合した考察を行っている点、③観光開発にとどまらず、地域開発への波及状況、および持続的な地域の社会経済発展へと導くための課題を考察している点、があげられる。こうした研究上の諸特徴は、本論文全体で調和的に作用しており、これまでの一地域事例研究を越えて観光開発を志向する他地域にも十分参考となる示唆を提供している。こうしたことから本研究の考察結果は、個別地域だけの示唆にとどまらない、一般地域にまで適用可能な研究水準に到達している。理論的基礎として採用した観光融合論および観光イノベーション論は、必ずしも理論としての共通認識が定着しているわけではないものの、ユニークかつ魅力的なロジックであり、これらのロジックを敢えて研究に導入し、挑戦した点はむしろ評価に値する。今後一層の研鑽が期待される研究であると評価し得る。

3 学内の手続き

提出された論文の審査ならびに文書及び口頭による最終試験の結果は、本学学位規則第7条に基づき研究科委員会で審査委員会主査から報告され、研究科委員会構成員の関

覧に供するため博士論文の閲覧を経て、令和元年 8 月 6 日の研究科委員会において、同論文を合格と決定した（同規則第 8 条第 1 項）。

その後、同年 8 月 6 日、研究科委員会が開催され、同論文について商学研究科長より、委員会の審査経過ならびに論文要旨の報告がなされ、合格とすることが承認された（同規則第 10 条第 2 項）。これに基づき、同年 9 月 30 日付にて、博士（商学）の学位が授与された。